



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	プレ 「教職実践演習」の試行
Author(s)	梅津, 徹郎
Citation	北海道大学教職課程年報, 1, 35-41
Issue Date	2011-03-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/45344
Type	departmental bulletin paper
File Information	kyoushoku Umetsu.pdf



プレ「教職実践演習」の試行

梅津 徹郎

はじめに ー 「教職実践演習」新設の背景

「教育職員免許法施行規則の一部を改正する省令（平成 20 年文部科学省令第 34 号）」により、2010（平成 22）年度以降の大学入学者の教職課程の「教職に関する科目」として、「教職実践演習」が新設された。

この演習は、学生の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するもので、教育実習を終えた 4 年次後期（10 月－3 月）に開講されることになった。

当該演習を開講する前提として、学生の教職課程の履修履歴を把握するための「履修カルテ」の作成も義務付けられることになり、本学においても独自の「履修カルテ」を作成し、本年度入学者で「教職入門」履修学生（約 400 名）に配布したところである。

これらの制度変更の背景には、1990 年代なかばにあらわれた「学級崩壊」にたいして、行政サイドからの「教員の資質能力の向上」の声が今日までの「教育改革」を後押ししてきたといえる。

たとえば、1998 年 9 月の中央教育審議会答申「今後の地方教育行政の在り方について」以降、教育職員養成審議会第 3 次答申「養成と採用・研修との連携の円滑化について」（1999 年 12 月）、教育改革国民会議報告「教育を変える十七の提案」（2000 年 12 月）、文部科学省「二十一世紀教育新生プラン」（2001 年 1 月）、中央教育審議会答申「今後の教員免許制度の在り方について」（2002 年 2 月）と、矢継ぎ早に制度変更へ向けて大きく舵をきることになった。

その後、2006 年 7 月の中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」で、「教職大学院」の設置、教員免許更新制の導入、教員評価の改善・充実、指導力不足教員に対する人事管理システムの活用など包括的な提起をおこなったのである。

1 本学における「教職実践演習」のシラバス概要

「教職実践演習」の開講、実施は 2013（平成 25）年となるが、昨年度来、教育学院教職課程委員会を中心にシラバスと「履修カルテ」の内容について検討を重ねてきた。

毎年卒業・修了時に約 200 名の学生が教員免許状を取得しており、それを前提にシラバスの内容、方法等について作成した。

以下に現在予定しているシラバス（案）を次頁に紹介する。

北海道大学「教職実践演習」シラバス(案)

授業科目名 教職実践演習	単位数 2	担当教員名 (8名)	履修時期 4年次後期
-----------------	----------	---------------	---------------

受講者数 約200名(討論等の演習では、8グループに分かれる)
教員の連携・協力体制 年度当初に、各科教育法担当教員と情報交換を行ない、講義内容を検討する。
授業の到達目標およびテーマ これまでの履修状況をふまえ、教員として必要な知識、技能を補完する。
授業の概要 1. 教育実習を振り返り、総括するとともに教員として必要な知識、技能等について討論する。 2. 教育実習では経験できなかった学校種あるいは特色ある教育活動を実践している高校を見学し、学校・教師・生徒がかかえている諸課題について学ぶ。 3. 教科外活動やPTA活動など、学校教育を支えている諸活動のあり方について実践的に学び討論を行なう。
授業計画 第1回 高校見学オリエンテーション(事前指導) 学生の出身校や教育実習校とは異なる学校種があることを説明する。日本の高校教育の現状、とくに北海道の状況について述べ、様々な特色ある取り組みについて概括し、次回からの高校見学のための予備知識を得る。 第2回 高校見学(1) 特色ある取り組みを見学し、教育活動の特徴と課題について学ぶ。 第3回 高校見学(2) 特色ある取り組みを見学し、教育活動の特徴と課題について学ぶ。 第4回 見学校における教育課題 高校見学を終えて、見学により学んだ事柄や教育課題を整理し、理解を深める。(見学レポートの作成を含む) 第5回 教育課題解決へむけてのアプローチ 高校見学レポートをもとにグループごとに課題討論を行ない、多面的な理解ができるようにする。 第6回 教育実習事後指導レポートによる振り返りと総括 教育実習終了後に履修する事後指導で作成したレポートを活用する。教科指導、生徒指導で経験した課題、課題解決のために考えた工夫、実践したこと、その結果についての振り返り、総括の視点、方法、留意点などの講義を行なう。 第7回 教育実習事後指導レポートをもとにグループごとに課題討論 前回の講義をふまえて、各自の振り返りと総括をもとに、グループで討論を行なう。 第8回 現職教員による講話 教科指導だけでなく、校務分掌についても含む内容とし、学生が実習中に経験できなかった学校内の業務について理解を深める。 第9回 校務分掌遂行における教師間連携と協力のあり方 教育実習の経験と現職教員による講話を受け、教科指導以外の仕事である校務分掌について理解を深め、教師間の連携と協力のあり方についてグループ討論を行なう。 第10回 教育委員会による講話 行政の立場から学校経営を中心に、教育現場が抱えている課題等について理解を深める。 第11回 地域とつながる学校づくり 教育委員会による講話をもとに、学校経営について学んだことを各自が整理し、グループ討論を行なう。 第12回 PTA父母役員による講話 家庭・地域から学校に期待することを中心に理解を深める。同時にPTAと学校・教職員との協力のあり方についても理解する。 第13回 保護者とつながる学校づくり PTA父母役員による講話をもとに、学校が果たすべき役割を多面的に理解するとともに、保護者との連携と協力のあり方についてグループ討論を行なう。 第14回 携帯電話の利用など、子どもを取りまく社会状況に関する講話 子どもを取りまく社会状況について具体的に理解する。 第15回 教職課程のまとめのグループ討論 教員に求められる資質能力とはどのようなものなのかを中心にグループ討論を行ない、自分自身の今後の課題について整理する。
テキスト 授業時に配布する資料を用いる。
参考書・参考資料等 北海道大学教務委員会教職課程専門委員会『教育実習の手引き』 学習指導要領
学生に対する評価 高校見学は必修とする。 授業、討論の参加状況(30%) 課題レポート(高校見学レポート+期末レポート)の評価(70%)

2 札幌大通高等学校でのプレ「教職実践演習」実施へむけて

1) 見学対象校の決定まで

シラバス（案）で示した第1回～第3回の＜特色のある教育活動を実践している高校見学＞に約200名の学生をどのように振り分けかつ実りあるものにするのかが教職課程委員会での当初の大きな課題であった。たとえば、以下のことが話題にのぼった。

- 本学の学生の出身高校はほとんどが進学校である。そのため札幌市内の全日制・普通科高校の見学では、出身高校と授業等の様子はほとんど変わらない。
全日制・普通科高校以外で考えられる校種として、夜間定時制高校、通信制高校、工業高校、商業高校などが考えられた。
- 通常の授業（1講～5講）のコマには設定できないため、学生たちの見学時期・時間は限定されるであろう。
- 多人数の学生を受け入れてくれる学校をいかに確保するか。また見学時の教員配置の体制をどのようにとるか。

実際にこのシラバス（案）で「何ができ、何ができないのか」を検証しなければならない。そこで梅津担当の「教育技術論Ⅱ」（履修者約80名）の授業を利用し、高校見学を行うことにした。

まず見学対象高校を＜札幌大通高等学校（札幌市立）＞とした（以下、大通高校と略記する）。その理由は、大通高校が午前部、午後部、夜間部という三部制の単位制高校であり、履修学生の出身校とは大きく異なること、また多様な科目設定と特色ある取組みを実践しはじめた新しい高校であったことである。さらに大通高校の所在地が本学から歩いて20分程度で行けるところにあり、地下鉄駅にも近いという利便性があったからである。

2009年6月に大通高校校長と午前・午後部と夜間部担当の教頭2名に挨拶に行き、「教職実践演習」新設の経過と本学のシラバス（案）について趣旨説明をおこなった。同年は10月、11月の2回、＜午後部＞の授業を参観させてもらった。また翌2010年は5月、6月の2回、教職課程委員が＜夜間部＞の授業や諸活動を参観させてもらった。

これらの授業参観を基礎資料に教職課程委員会としてプレ「教職実践演習」（案）を作成し、9月と11月の2回、大通高校と協議をおこなった。その結果、正式に大通高校（夜間部）見学を12月上旬に3回実施することで合意し、受け入れの承諾を得ることとなった。

午後部の時程	5、6校時	13:35～15:05
	7、8校時	15:15～16:45
夜間部の時程	9、10校時	17:55～19:25
	11、12校時	19:35～21:05

2) 履修学生への周知

2010年度後期開講の「教育技術論Ⅰ」の履修者は約190名であった。授業の最初に事前アンケートを行い、①「教育技術論Ⅱ」を履修する予定の届け出をしてもらうこと、②「教

育技術論Ⅱ」では、大通高校の見学は必修であること、③見学日を3回設定するので、希望日を第3希望まで記入すること、④見学は5名程度のグループに分かれて行うこと、⑤アルバイトや実験予定を調整しておくこと等を連絡した。

事前アンケートの結果、約80名が「教育技術論Ⅱ」を履修することがわかり、それらをもとに見学日程とグループの確定を「教育技術論Ⅰ」の最終授業でおこなった。

3) 大通高校夜間部見学の実施内容と教員体制



養護教諭、カウンセラーによる
コーピングリレイションの授業



化学実験（電気分解）の授業



Y 教頭講話①



S 教頭講話②

夜間部の時程	9、10校時	17:55-19:25	(90分)
	11、12校時	19:35-21:05	(90分)
見学日	①12月9日(木)	学生数17名	教員:梅津、近藤
	②12月10日(金)	学生数34名	教員:梅津、大野
	③12月13日(月)	学生数28名	教員:梅津、浅川

実施内容	17:55～18:40	教頭より講話① 大通高校の取組みに関する概要説明。
	18:40～19:25	グループに分かれ自由に授業見学
	19:25～19:35	休み時間（生徒、教師の観察）
	19:35～20:20	グループに分かれ自由に授業見学
	20:20～21:05	教頭より講話② 大通高校の生徒のようす、教員の勤務 実態等についての説明。

見学にあたっては学生に「**見学シート**」（本稿末尾資料参照）を配布し、後日記入、提出を義務づけた。

4) 見学後のグループ討論（意見交流）と見学レポート

大通高校見学終了後の最初の授業日（12月14日）では、見学日別に大グループに分け、さらにそれを見学グループ別に分けて見学内容に関して討論、意見交流をおこなった。

各グループ討論には3名の教員（梅津、大野、浅川）がつく体制をとった。

グループ別討論、意見交流	(25分程度)
各グループからの報告	(25分程度)
見学レポート（課題）の執筆、提出	(30分程度)

5) 大通高校の見学について学生からの意見、感想（一部抜粋）

1. 「定時制」「市立」「単位制」など私の出身高校とは全く異なるタイプの高校だったので、大変参考になりました。とても良かったです。グループ分けを事前に行ったり、名簿を配布してもらえると、当日や今日のディスカッションがもっとスムーズに行えたのではないかと思います。（薬学部4年・男）
2. 休み時間などに生徒と話をすることはあったが、正式に交流の場を設けて、学校生活等について対話をする機会があればなおよかった。（文学部3年・男）
3. 定時制という、自分にとってはイメージのわきにくい学校だったので見学ができてよかった。見学だけでなく、講話を聴けたことが勉強になった。（教育学部3年・女）
4. 他の講義（教職科目）や教育技術論Ⅰにおいて、今回のような高校見学ができれば、関心が高まる学生も増えるのではないかと思います。今回参加してみて得られたものは大きかったと感じました。（法学部4年・男）
5. 大通高校のように、特徴をもった学校を見学して、進学校といわれる高校出身者に

としては、新たなイメージを抱くことができ、良かったと思います。(理学部3年・女)

4 「教職実践演習」の本格的実施へむけて

今回の大通高校見学は、教育技術論の授業の一部を使って実施したプレ「教職実践演習」であったが、2013年度の本格実施へむけて検討すべき課題もいくつか明らかになってきた。シラバス(案)をもとにみてみよう。

第一は札幌キャンパスの履修学生約200名の見学を受け入れてくれる学校の確保である。少なくとも3校程度の確保が必要と思われるが、北海道教育委員会、札幌市教育委員会との協力、連携を視野に早急に取り組む必要がある。

第二は、見学時の教員配置である。「教職実践演習」は教員免許状取得のための必修科目であり、かつ履修学生が全学部(大学院を含む)にわたっているため、全学的な協力が不可欠である。しかるべき時期に、教職課程専門委員会で話題としなければならない課題である。

第三は外部講師(ゲストティーチャー)の確保である。現職の高校教員、管理職、PTA関係者など、依頼可能な講師のリスト作成をすすめる必要があり、この点についても北海道教育委員会、札幌市教育委員会への協力依頼を準備する必要がある。

第四は函館キャンパス(水産学部)での実施計画に関して具体的な協議をすすめなければならないことである。見学受け入れ高校の確保はもとより、外部講師の確保や学生同士の討論時の教員配置など課題は多い。

以上、現時点で「教職実践演習」の本格的実施にむけて検討すべき課題と思われることを四点ほど挙げたが、いずれも全学的な合意形成のために一定の時間を要することばかりである。本学における教員養成が全学の課題となっているという共通認識をもっていただくことを期待したい。

学生番号 _____ 所属 _____ 学部・院 _____ 氏名 _____

1. あなたの出身高校 _____ 都道府県 _____ 高等学校 _____
2. 定時制の生徒の様子をみていて、どのようなことを感じましたか？
 - 1) 教室内（授業、HR、諸活動）での様子から。

 - 2) 休み時間の様子から。
- 3) 定時制の先生方の様子を見ていて、どのようなことを感じましたか？
 - 1) 教室内（授業、HR、諸活動）での様子から。

 - 2) 休み時間の様子から。
- 4) 校内の「掲示物」や「作品」等についてどのようなことを感じましたか？
- 5) あなたの出身高校と比べ、定時制の生徒や先生方の様子はどのように違いましたか？
また、その違いについてあなたはどのように考えますか？
- 6) 「講話」のなかで特に印象に残ったのはどのようなことですか？
- 7) 今回の学校見学であなたはどのようなことを学びましたか？
また、教員として必要な資質や能力として何が大切だと思いましたか？

このプリントは12月14日（火）の授業のときに提出してもらいます。また討論資料としても使用しますので、忘れずに当日持参してください。